

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: 大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～

和文タイトル: 大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 福島県保健衛生雑誌

年: 2019 月: 3 巻: 33 頁: 52~57

筆頭著者名: 尾形優香

所属UC名: 福島UC

目的:

エコチル調査福島ユニットセンターでの実施状況から大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の課題について検討した。

方法:

福島県内全域の詳細調査対象者637名(当初)を対象に、2歳および4歳で行った精神神経発達検査(新版K式発達検査2001)の実施のプロセス評価を行った。

結果:

県内11箇所の基幹病院および施設の協力を得て、のべ17名の検査者が検査にあたった。詳細調査対象者に対する参加率は、2歳96.9%、4歳87.6%であった。参加した対象者の内、全検査終了が2歳97.1%、4歳98.9%であった。結果報告は、基本的には郵送にて行い、丁寧な対応が必要と考えられる参加者については、事例検討後、参加者の状況に合わせて面談および電話対応を行った。

考察:(研究の限界を含める)

基幹病院および施設に県内全域で行われるエコチル調査の位置づけや重要性の理解を得られたことにより、県内全域で対象者が参加できる実施体制を作ることができた。2歳に比べて4歳は、検査の参加率が低下傾向にあり、対象者が協力しやすい条件の把握と実施方策の検討が必要である。また、結果報告を行う上では、多様な参加者の状況に合わせた対応ができるよう、行政や関連機関との継続的な関係作りが重要である。

結論:

行政および関連機関へ調査で得られた情報を発信し、エコチル調査へ関心を持ち続けてもらう体制を作っていくことが今後も求められる。また、参加者が参加しやすい体制作りと参加した意義を持てる情報の発信方法について検討を積み重ねていかなければならない。